



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

自力

住職 平田真純

「欲で動くな、正しい理念で動け」といったことは、成功した経営者がよく語るところであります。欲で動けば妄動に陥りやすく、正しい智慧・理念に基づけば、冷静な判断による成功に導かれるという教訓でありましょう。

聖天様にはよく、「欲を肯定する神様」とか、「妄動的願いもかなえてくれる神様」というイメージを持たれる方も多いようです。聖天様の存在が巷間知られるようになればなるほど、一部でそのような方向に語られがちです。

たしかに「大聖歡喜尊天和讃」にも、無理の願いと知りつつも その智慧浅きを啓みて 願いを叶え給いつつ 導き給うにさも似たり というくだりがあつたりしますが、この「無理の願い」という言葉は、必ずしも無節操な欲の肯定ではありません。人生においては、危機的状況や好ましからざる方向

を幾度となく経験することでしょう。たとえば破産寸前に陥るとか、体を壊すといったことも、これはある意味、欲望の果てです。その窮地を聖天様が救ってくださつたとすれば、それは「もう少し利口になれよ」という御助言でもあるのではないのでしょうか。

聖天様に救われたという実感を経験された方の多くは、その後の参拝では、自分を中心に置かなくなり、聖天様を中心に置くようになります。聖天様を心に置くといつても、熱狂崇拜的なものではありません。いたらぬ私たちが、少しでもまともになるように導いてくださる存在として信頼するということです。

聖天様からの目に見える御利益は、ある意味ピンポイントの授かりもの、ワンポイントの急場しのぎといつてもよいかもしれません。運でしのいでも、あとは続きません。自力をつけなければ意味はなく、無智な私たちが少しずつつける自力こそ、本当の御利益ではないのでしょうか。

参拝の方々が多くなっている昨今ですが、聖天様ひいては仏教と、より良い因縁を結び、国家や個人の安泰・発展につながればと、不肖ながら願う次第です。

待乳山便り

新信徒総代任命式 御袈裟授与式 報告

六月十七日、新たに信徒総代に就任された竹中輝夫様の任命式と、左記の方々への御袈裟授与式を執り行いました。

御袈裟受者御芳名（五十音順）

相吉英太郎 殿	秋葉 善勝 殿	阿部左知子 殿
飯塚 実 殿	井沼 良子 殿	氏永 真木 殿
勝村 孝子 殿	栗又 幸子 殿	小山 泰生 殿
斎藤 順子 殿	佐藤 加代 殿	柴田 亜弥 殿
澁谷三三子 殿	島田 信昌 殿	島田 宗彦 殿
諏訪部明子 殿	高尾 陽子 殿	高岡 京子 殿
瀧川 里恵 殿	竹内 大樹 殿	田中 千織 殿
中村江津子 殿	中村恵美子 殿	西山 恵子 殿
畑中志津子 殿	林屋克三郎 殿	廣田 稔明 殿
福田 敏子 殿	松浦 豊子 殿	松田 克己 殿
宮田 忍 殿	水島 響子 殿	山谷フサ子 殿
山谷マツ子 殿	山谷ユキイ 殿	殿

(計三十五名)

また法楽の後、任職より訓戒をお授けいただきました。

訓戒（要旨）

ただいま皆様にご当山の紋であるよついちようの入った輪袈裟を授与させていただきました。この輪袈裟は聖天様との深いご縁の証であると同時に



に、報恩感謝、仏道精進、利他回向の印でもあります。利他回向とは、他人に利益を与えるために自らの功德を他に回し向けることです。

尊天様のご加護に深く感謝して、ますます信仰を深くし、精進しようという気持ちを持ってご参拝ください。

皆様が真摯に参拝をなされば、その姿が見た人の感動を呼び、これ以上ない布教になるでしょう。自然と利他回向が実践され、功德が巡り巡って自分に返ってくるはずですよ。

ぜひとも今日いただいた輪袈裟を大事にすると同時に、今後もお参りを続けていただければ幸いに存じます。

この度は誠にありがとうございます。



七月一日、西岡和希くんのお宮参りを行い、行者様よりご加護を授かりました。尊天様のご加護を受けて、健やかに成長されることをお祈りしております。



信徒旅行 案内

十月二十八日（日）～二十九日（月）、生駒聖天、石切神社、四天王寺を巡る参拝旅行を企画しております。予定よりも早く応募を締め切る場合がございます。参加希望の方は事務所にてお申し込みください。

応募締切 九月二十七日

参加費 五万八千円（宿泊、交通費等含む）

定員四十名（最少催行三十名）

八月御縁日大法要 行事紹介

灯明講

八月二十日（月） 午前十一時

講金 一、五〇〇円

八月二十日、灯明講大法要を行い、聖天様にお供えするロウソクを供養いたします。

仏教における灯明は、闇を照らし光をもたらすことから、人を救済しようとする仏様の智慧の象徴であると言

われています。灯明をお供えするという風習はお釈迦様の時代から、衆生を悟りに導く光として大事にされてきました。

現代でも、香を炊く香炉、花を飾る花立、灯明を立てる燭台の三つは三具足と呼ばれ、荘厳の基本の道具として扱われています。大きい仏殿のご本尊様であっても、小さな仏壇であっても必ずこの三つが飾られ、私たちの生活の中に根付いています。

灯明講は過去から脈々と受け継がれてきた灯明の功德に感謝を捧げる法要となります。皆様の家内安全、所願成就を祈願いたしますので、ぜひ当講に参加し、灯明をお供えください。

訂正

先月号の林屋講報告の記事におきまして、林屋克三郎様を林屋友次郎様の孫にあたることと記載しましたが、正しくは息子にあたるの間違ひでした。この場でお詫びすると共に訂正させていただきます。



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生りしょうと呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

おまいり七十年

守尾 保太郎

(歡喜一号 昭和三十四年発行より)

明治二年に生まれた私が、お山へお参りを始めたのは明治二十五年二月のことです。その頃、勤めていたお店では唐墨を売っており、私は資本もありませんでしたので品物を借りては売り歩いたものです。京橋の桶町に生まれ育った私ですから、浅草の待乳山へお参りするのには夜明けに家を出て歩いて行き、帰りは馬車鉄道に乗ったものです。

その頃のお山は、総代さんの大西さんご夫婦や、婦人講を創立された百瀬さんなど熱心な方が多く、毎日お百度している方や、お堂が開くのを待ちかねて居られた方も少なからずあり、賑やかでした。

本堂は現在より多少、小さかったのですが、とても古いもので歴史が感じられました。参道の両側には大きな樺や銀杏の原木が茂っていて、境内に入ると身も心も引き締まる様な神々しさでした。たまに川蒸気に乗って隅田川から眺めたお山は木々がうっそうと茂り、お堂が見えず『聖天の森』と呼ばれる程でした。残念ながらそんな境内の樹木も、震災前から向島が開け工場等が出来てからは、川側の大きな木が大部枯れました。その上震災ですっかり焼けてしまいました。

私は夢中でおまいりしたりお願いごとをしたりすること

は、ほとんどありません。尤も初めの頃は品物を売って口錢をとる生活でしたから毎日毎日歩き回って苦労しましたので、その頃には月の内三週間もお参りを続けたこともありませす。しかし基本的には、今日まで一貫して細く永い信仰の道を歩んで居ります。

つらく苦しい時も幾度かありました。明治二十六年、本店から品物を借りてやつと小さな店を開業しました。ところがその年七月に日清戦争が始まりました。したがってひどい排支運動が起こり、勿論支那からの輸入も出来ず、ひどい時は店の前を通る人から「ここに支那の品物を売っているぞ」と騒がれ石を投げつけられる始末で、開店早々ひどい苦境に落ちました。しかし「尊天さまはきつと今にご加護下さる」と信じて堪えて居りました処、意外に早く翌年に終戦となりました。

そうなると、今度は全く反対の現象が起こり、支那からくるものは何でも売れます。戦争から帰って来た人達が、珍しい向こうの土産物をもって来る。世間一般が支那のものに関心を持ち、店にわざわざ遠くから買いに來たり、問い合わせに來たりして品物が売れ切れるほど繁盛しました。

しかしこのあと本店の主人が急逝されると、大阪の本店だけのこして東京店を引き揚げてしまいました。私の面倒を見てくれた人がなくなつたので、品物が無く、商売が出来ず、又苦しい時になりました。この時も一生懸命尊天様にお縋りしたものです。世帯を持って妻子はいるし一時非常に困りましたが、永い間真面目に働き支店の閉鎖の時にも献身手伝ったりしましたので、思いかげず大阪から品物を廻してくれる様になりました。

永い信仰の生活の中にはずいぶん大勢の方とおつきあい

もしました。一時期に大変御利益を得た方は、物質的なこと、殊に金のことをお願いしていたのだと、すぐわかります。その中には、尊天様の御利益にはお金でお礼すればそれで済むと考える人もあるようです。そのようなやりかたは単なる商取引ならばいざしらず、尊天様に失礼に当たることでしょう。信仰の本当のあらわれは、心からの御礼の気持ちや行いがあってこそであると思います。

「尊天様はあらたかだから」と、御祈禱をたのみつばなしにしながら、お参りをおろそかにしている方もいるようです。また金銭や物質の欲求にのみこだわる人も多くみうけられます。私はそれではいけないと思います。又そのような人は決して永く信仰を続けることは出来ません。

私は生活に困るようではいけないが、そんなにぜいたくをしたいとは思いません。今でも尊天様にお願ひする時は、先ず自分の力と境遇を反省してみた上で、決して無理なお願ひをした事はありません。自分の分に応じた生活と欲の中で永く信仰を続けることであると思つて居ります。お陰様で息子と孫もひこ孫も皆それぞれおまいりし、信仰して居りますことに満足して居る次第であります。

終わりによく人から長寿の秘訣をきかれますが、酒や煙草をたしなみませんが、甘いものはいただきます。それでも間食をさけて欲しい時には食事の前いただきます。またお餅が好きで朝に食べることもあります。夜ふかしをさげ、商売の為に外を歩くことも原因の一つだと思ひます。目も耳も足も不自由を覚えたことはありませんのでこれに勝るお陰はないと感謝しております。

私の生涯に三度目の御本堂が立派に完成される日の来るのを楽しみに待つております。(終わり)

八月行事予定

御縁日大法要

灯明講

八月二十日(月) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

仏の智火をあらわす灯明を供養し、各々の身体健康全、家内安全を祈願します。

朝まいり会

八月一日〜七日

午前八時から八時半

会費

五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

八月十二日(日)

午前九時

参加費

無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

八月十二日(日)

午前十時/午後一時

会費

五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

八月二十五日(土) 午後五時〜七時

定員三十名

参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

八月二十五日(土)

午前十一時

法要料

五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆様とご一緒にお上げする御礼の法要です。

九月の行事

御縁日大法要

開山会大法要

九月二十日(木)

午前十一時

講金

三、〇〇〇円也

祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力により一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

祈祷料

別座祈祷 壺万円(一週間)
浴油祈祷 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。
百味供養 法要料 八万円
沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすること、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壺万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。